台湾における長屋の考察と共にカタログ化した再生提案に関する研究

Study on renovation suggestion with the cataloged proposal of townhouses in Taiwan

研究概要

「歴史建築」や「文化財」は、それの価値があると認められた時点で政府に保護され、そして再利活用なり、保存なり、様々な用途が考えられる。それら全ての行為は、建築そのモノの保存再生をすることでなく、戦争中銃に打たれた壁穴、偉人が住んでいた屋敷、時の流れと共に欠けたレンガ、その建築物にあった「物語」の継承であるのだ。だが、歴史文化価値を持つ建造物は宝物のように保護されることに対して、どこにでも見かけられるような庶民建物は、それほどの注目は浴びられていない。それらの建造物は時代に追いつけなかったり、老朽化したり、住む人の需要に満足できなかったりすると壊され、建て替えられる。

台湾に多く存在する長屋の価値とは、歴史的建造物が持つ客観的視点から捉えられる価値と違い、建築自体それの価値や、目に見えるようなものではなく、それは台湾に住んでいる人々が長年経て、長屋住居への頼りと国民の民族性、意識の継承を引き継ぐような存在であり、台湾を代表するアノニマス建築であると思い、今後時代の変遷に応じて、今まで長屋の使われ方と異なる切り口で改めて長屋のヴァリューを見直し、長屋再生の方法論を探求することが本研究の幹である。

長屋再生論

長屋再生論とは、特定した長屋に対するリノベーションの提案ではなく、比較的に多く存在する長屋の形式をリサーチ、そして分類し、それら大量に建てられてきた様々な長屋に対応できるイメージをカタログ化したアイデア集である。

それら再生の提案をカタログ化する事により、バリエーションの広い提案が可能になり、その中には、町のような大きなスケールから、建築単体まで、長屋の現状に対する解決するような提案もあったり、ちょっと遊んだ空想のような提案もある。

メインディッシュのカタログアイデア集をご覧になる前に、前菜となる長屋の物語を案内する「ガイドブック」が第一冊の手引きとなり、そして「基礎カタログアイデア集」が第二冊。続いて第三冊の「応用カタログ集」とは、自ら第二冊基礎カタログを用いて設計に応用した「試作集」である

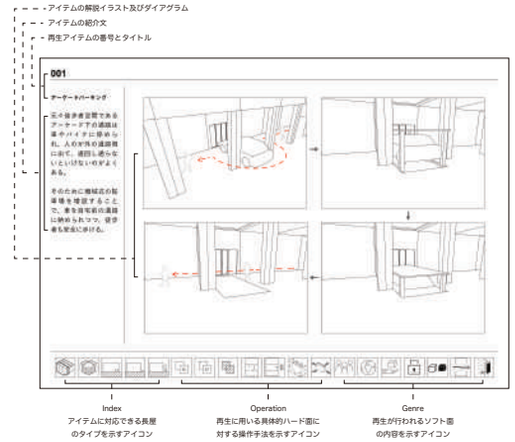
長屋リノベーションガイドブックは、辞典のような存在ではなく、本屋に置かれている料理のレシピ、日曜大具のDIYガイドブック。そのような本を眺める気持ちで、見ていただければ良いと考える。いつかそれらのアイデアが、長屋に住んでいる人、これから住む人のヒントになればいいと思うし、長屋に住んでいる人でなくても、台湾に存在する多くの長屋には無限の可能性があると伝わり、少しでも長屋の可能性を考えさせられるようなガイドブックになることを願う。

長屋リノベーションアイデア集

再生プロセス

リノベーションプロセスは、まず、長屋の持ち主からカタログイメージ集を参照し、お買い物感覚で気になるイメージをピックアップする。そこから建築背景を持つ専門家による実施の分析が必要となり、そのまま提案を使うことは当然可能だが、もし個体差による実施ができない部分があれば、カタログをイメージベースとし、専門家の判断により個体差に合わせた修正作業が必要となる。

また、町面積の長屋リノベーション提案の場合は、建築家、あるいは都市計画の専門家による提案が必要となり、カタログイメージを町に住む住人への提案と説得。そして大きな全体像が決まったら、また個人リノベーションの場合と同じく、住人の需要に応じた個体へのカスタマイズができる。

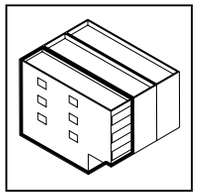


カタログページマニュアル

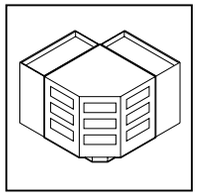
インデックス

再生の内容はどのような長屋、どのような形態に適応しているかを示す

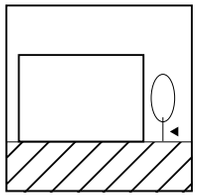
端型長屋



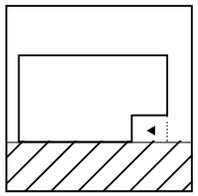
角型長屋



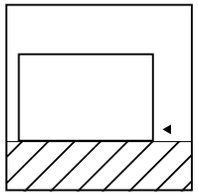
前庭付き長屋



アーケード付き長屋

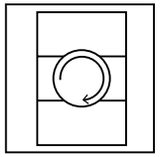


直入式長屋



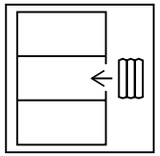
オペレーション

再生に用いる物理的な操作方法



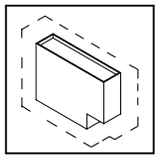
機能の追加及び変更

建築物理自体は変更せず､元の機能と異なる機能（使用方式）を入れ変わる



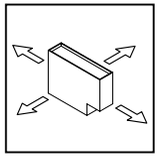
装置の追加

既存の街屋に新たな装置を付け加える手法、既製品や、新たな街屋に特化した製品開発も可能である。



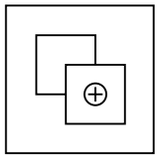
サステナビリティー

既存の建物に構造的の補強や建物の寿命を伸ばす手法



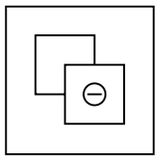
オープン

元々私的長屋住居空間を公共的に開く手法



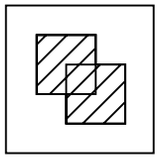
容積 - 増

新しい空間や、ボリュームを追加する手法



容積 - 減

既存建築のボリュームを減じる手法



空間の結合

部屋の仕切り壁を無くしたり、スラブを除いだり、分節された空間のボリュウームを一つにまとめる手法

ジャンル

再生の内容を示す

サービス

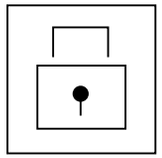
住民（市民）のためのプログラム作り、あるいは見直し

エコロジー

住環境や地球に優しいエコロジーの提案

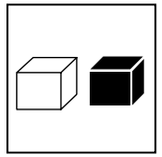
プロダクト

既製のプロジェクトの追加や街屋に特化した製品開発にもつながる



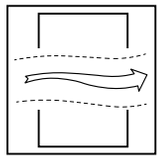
セキュリティー

防災、防犯の強化、あるいは見直し



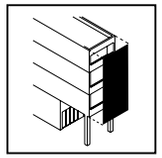
バリエーション

住戸のタイプの変更や空間のバリエーションの豊富化



パッシブデザイン

既存の建物に構造的の補強や建物の寿命を伸ばす手法



アピアランス

建物の外観を変える

001
アーガーメーパーキング

005 - 2
ライドルコレー

010
オリンピカス
インデポーション

002
ルーフパーク

006
パシフィックス_1

003
オープンドキャントフロア

011
ランニンググレーン

012
ターマンデンシステム

013
アンダーアーケード

014
アーケード体験版

015
ボルタリング

016
高層地域版 - 1

021
アーバンナントハウス

022
コワーキングスペース

023
ボーディングアース

024
ドリネル社

025
パシフィックス_2

026
建築緑化

040
パシフィックス_3

031
フリーマーケット

032
フラッドドランド

033
共有エレベーター

034
シェアリングキッチン

035
パブリックフロア

041
パシフィックス_4

043
シェア長屋

044
マルチルーム

045
デッキのある長屋

046
フロア独立化

046-1
フロア独立化

051
緑屋活用

052
ユニットステアズ

053
ルーフネット

054
階段の活用

055
窓サッシの再利用

056
ブリックリース

応用カタログとは

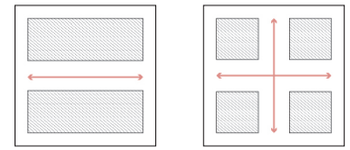
応用カタログ集は、自ら基礎カタログを用いて設計に応用した「試作集」である。
第三者が基礎カタログを用いてリノベーションに取り入れる「ボトムアップ」の方法論に対して、自らの設計においては「トップダウン」の手法であると認識する。そこで、基礎カタログを用いて、サステナブル性のある公共空間として発展しいくことは、論理的に持続的な長屋再利用方法につながるのではないかと考え、仮想パブリックコミュニティー作りに着目した。
応用カタログに関しては、実際にある敷地をリサーチした上で設計するというスタンダードの手法ではなく、仮設の敷地を用いて検証するという方法である。
仮説の敷地とは、台湾都市計画構成から抽出した、最も多く存在している、建築ボリュームと道路（動線）の関係性を示す、空間の「パターン」である。
つまり、自ら想定した正方形の敷地フレームに、建築ボリュームと複数動線構成を用いて構築したものが「仮説敷地」であり、異なるタイプの動線とボリュームの配置により、異なるパターンの敷地が生じる。仮説の敷地は、基礎カタログとパブリックコミュニティーを結びつける媒質のようなものとして考えれば良い。
応用カタログにも、基礎カタログと同じよう、インデックス、オペレーション、ジャンルを示す指標があり、ここにおけインデックスとは、利用した仮説の敷地タイプと基礎カタログ、そして基礎カタログ同士のリレーションシップを示す図式。
オペレーションは応用カタログにおいて、パブリックコミュニティーがどう発生したかを示している。
応用カタログにおける操作方法や仕方は、すでに決まった選択肢の中からあげるのではなく、使用した仮説敷地のタイプとカタログの構成によって変化する。
ジャンルは提案の中でどのよな内容、どのようなシーンが行われているかを示しているものである。

仮説敷地タイプ

仮説の敷地とは、台湾都市計画構成から抽出した、最も多く存在している、建築ボリュームと道路（動線）の関係性を示す、空間の「パターン」である。

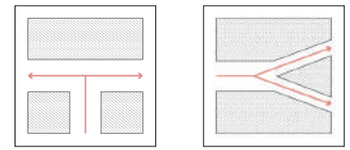
横断

Splite　S-1 I S-2



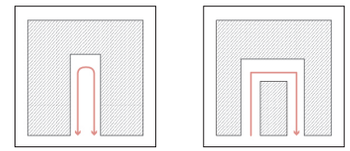
分岐

Branch　B-1 I B-2



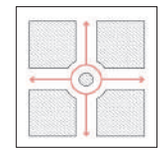
折り返し

Reture　R-1 I R-2



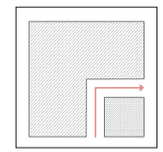
サークル

Circle　C -1



曲がり

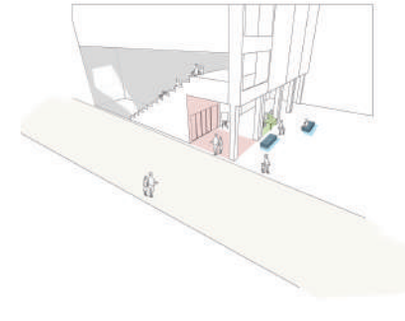
Tune　T -1



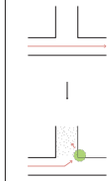
001

アイテム _1

長屋映画館が誘い水の役割を果たします。通りかかる人を誘発し、敷地内に呼びかけ、折り返しパターンには閉じられた道路内敷地の特性を持っており、長屋からリサイクルしたレンガを敷地内にベンチを配置し、映画を楽しんだ後ちょっとした腰掛けできたり、会話のできる場所となる。



Operation



Site　Catalog　Relationship　Genre

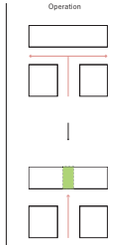
10　11

002

アイテム _2

T字路の頂点に集客性が持つ特性を生かし、市民に開放したパブリックスペースでイベントを開催することができる。上階はイベント計画者のワークスペースとして貸し出し、不定期的イベントを開催することで市民たちにパブリックコミュニティーを結ませると考える。

Operation



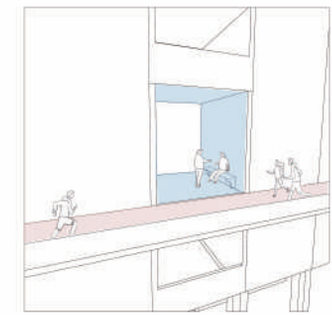
Site　Catalog　Relationship　Genre

12　13

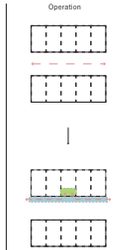
003

アイテム _3

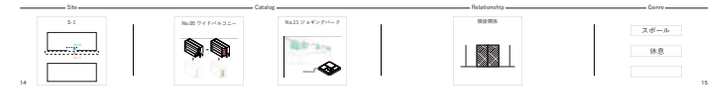
個人住宅の拡幅したバルコニーを運動の人々にオープンし、一息休憩のできる休息場、さらに運動人同士の会話できる場所となる。



Operation



Site　Catalog　Relationship　Genre



14　15